



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

< BOOK-5 の刊行に当たって協力校代表・会員の皆さんへ >



(2007年7月撮影)

茅ヶ崎方式英語会の発足から26年を経て、ようやく改定教本の完結篇である BOOK-5 の出版にこぎつけることが出来ました。茅ヶ崎方式英語会に集まった多くの方々のご協力、ご鞭撻のおかげであり、深く感謝申し上げます。

BOOK-5 は、茅ヶ崎方式英語学習法の目標である外国人との英語による対話を達成するために、BOOK-1~4 で培った LISTENING, READING の力を WRITING と SPEAKING へ発展させるための TRAINING BOOK です。私としては、これまで9冊の教本を書きながら蓄積してきた KNOW HOW のすべてを、BOOK-5 につぎ込んだつもりです。

英語で対話ができるようになると、相手が外国人であることを一瞬忘れる時があります。その時、国籍や人種を超えて、互いに人間としての共感をおぼえます。茅ヶ崎方式で学ぶ皆さんには、その日が来るまで、頑張ってもらいたいと、教本の陰から願っています。

松山 薫

(茅ヶ崎方式創設者、Book5 著者)

協力校全国大会 開催

11月3日文化の日、毎年恒例の協力校懇親会を「協力校全国大会」と銘打って、本社近くの東京飯田橋にて開催いたしました。協力校主宰者の方々の懇親を中心に、参加者は15名と少なかったものの、充実したひと時をお過ごしいただけたと思います。また、新潟校を主宰されている渡辺聖さんから、新潟での講演会（講演者は、自転車世界1周を7年半かけて完遂した冒険家、石田ゆうすけさん）のご報告をいただきました。渡辺さんの興味深いお話の一端でもお届けできればと、原稿をお寄せいただきました。





石田ゆうすけ氏講演会

「行かずに死ねるか」

新潟校 渡辺 聖

「生きていることが奇跡のように見えているのだった。それを見つめているうちに、ぼくはこれまでのどの瞬間よりも謙虚な気持ちになって、そのことに感謝した。与えられた時間を、精一杯生きようと思った。」

この文章は自転車で7年半かけて世界一周を成し遂げた石田ゆうすけさんの著書「行かずに死ねるか」の巻末の文章です。その石田氏の著書「行かずに死ねるか」を一昨年、人の紹介で読みました。読み終えた瞬間、体中を電気が通るのが分かるくらい感動しました。もちろん紀行の本なので、世界各地の風習や文化などが紹介されているのですが何にも増して感動したのが巻末の文章でした。これは旅の前半に、南米で強盗に遭遇したときの経験から来ています。強盗に銃を腹部に突きつけられ死を覚悟したそうです。結果的に生きていたわけですが自分の命は強盗の指があと何センチか動いていればなくなっていたもの、翻って現実に生きているという事実これ以上ない感謝の気持ちを込めているわけです。それを読んで私は感動すると同時に多くの人に石田氏の経験を聞いていただきたいと強く思いました。連日、人の命がこれ以上ないくらいに軽く扱われている報道が続く中、命の大切さと生きていることに対する感謝の念を伝えることが自分の使命だと思ふようになりました。読み終わった後すぐご本人に連絡を取り、講演会という形で4回、石田氏に新潟に来ていただくことにしました。ご本人と確認して大陸ごとに話をしたほうがいいのではないかとということでアメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの各大陸を講演会の題材に選びました。

1回目はアメリカ編として2006年3月12日に開かれ、122名の市民の方が集まりました。彼の講演会はトークだけではなくスライドと音楽を使って会場にいる人も実際に石田さんと一緒に世界を回っているという「疑似世界一周」をしたような感覚になります。アメリカの「神の土地」として知られる有名なモニュメントバレーではあまりの景色の荘厳さに文字通り「brehtaking」になりました。

2回目は2006年6月25日に行われました。189名の方が集まって下さいました。ヨーロッパ編では、ポーランドの足の悪い「キノコ売りのおじいさん」の誇り高さに参加者一同感嘆しました。少しの赤字は出ていますが参加者の「感動しました、次回もぜひお願いします。」というアンケートの言葉を見ると力が湧いてきます。

3回目は2006年10月22日に行われました。アフリカ編でした。「バオバブ村の少年バオバオ」の純粋さ、モザンビークで出会った女性の瞳の中に宿る「母性」などが語られ300人近い方が涙しました。この3回目からは教育的な価値が認められて新潟市、新潟市教育委員会、それに地元のテレビ局、ラジオ局、民間企業など30近くの団体が後援、協賛、協力をして下さいました。開催ごとに大きいイベントになって来ていることに感謝しています。また700枚のポスターを作成しコンビニ、銀行、市役所、学校、スーパーなど多くの人が集まる場所に貼っていただきました。命の重さを伝えたいという強い気持ちで石田氏に連絡し、講演会を続けてこられてとても良かったと思っています。参加者の中には名古屋から3回連続で出席された方もいました。2回目の講演で感動し自転車で佐渡を一周なさったご家族もいらっしゃいました。いつ見えなくなるかもしれない重大な進行性の眼の病気に冒されながら石田さんの講演会を楽しみに待っている学生さんもいらっしゃいました。

4回目は2007年3月11日アジア編として行われました。この時は400人近い方が新潟だけではなく秋田、山形、東京、福島、千葉、名古屋、大阪、滋賀、広島から多くの方が集まりました。4回の講演会の延べ人数は1000に達します。

以上4回の講演会を企画しての感想は「熱意は人を動かす」という昔から使い古された言葉です。参加された皆さんの笑顔を見れて本当に良かったと思っています。



協力校紹介 第37回

〈藤が丘校〉 横浜市青葉区藤が丘

代表 難波 ミヤ

藤が丘に転居してきたのを機に、協力校の仲間入りをさせていただきました。英語会の謳う、勉強会という発想にわが意を得ての開校でした。幸い、十名余の方にご賛同いただき、毎回熱心に通ってきていただいています。C3で始め、4年目に入った昨年10月からC2も開講しました。外交問題、中東情勢などネットで数時間調べて臨むことも多々あります。テーマの難しさに悩まされながらも、英語を介してみなさんと共に学ぶしあわせに日々感謝しています。

お近くにお住まいの方は、どうぞお気軽に体験にお立ち寄りください。お待ちしております。

さて、LCTは順番に内容を確認していきますが、いつも優秀さにほれほれし、ため息がもれてしまうほどの会員さんが当校にいらっやいます。勉強法などをお話しく下さいとお願いしたところ、ご快諾いただきました。ご紹介します。澁谷さんです。

藤が丘校 C3会員 澁谷麻里子

2006年9月に茅ヶ崎英語会に入会した専業主婦です。入会前は、英語で仕事をする予定も、海外旅行の予定も無し。周囲に外国人もいない、英語とはまるで縁のない生活でした。今では茅ヶ崎英語の学習を日々の中心とし、先生と猫の待つお教室にいく日を楽しみに生活しています。

モチベーションの無い中、学校卒業後も自己流で英語を続けてきましたが、どの勉強法が自分に合うのか分からず、いつも暗中模索でした。書店の英語コーナーに行けば百家争鳴、かえって迷いと焦りが深まるばかり。そこで偶然手にした安井京子さんの『女は英語でよみがえる』を読んで当会を知りました。

『英語教本ブック3』を入手しページをめくると、政治、経済、国際関係など難しそうな例文、シンプルな二色刷り、小さい文字でびっしりの紙面。「今どき珍しいくらい骨太な教材で、今の實力では自学自習はムリそう」というのが第一印象でした。ただ「学習方法がきちっと確立しているので、やればきっと力がつく。先生の手助けがあれば続くかも」とも思いました。あとは先生との相性次第です。実際に藤が丘校の難波先生をお訪ねし、入会を即決しました。

15ヶ月経った今、学習の効果があつた（と思える）点と、自分なりの自宅学習の方法について述べます。

- ・ヒアリングが楽になった。テキスト英文を見る前にディクテーションをして、聞き取り間違い／モレを調べる。単語の綴りと実際に聞こえる音声との違いを意識化することを続けるうちに、聞き取りミスの癖が分かってきました。
- ・LCTの聞き取りに前ほど疲れなくなった（内容にもよりますが）。LCTの背景説明のおかげで、政治・経済、国際関係などのニュースにも関心を持つようになりました。また、TVのデータ放送で日本語の言い回しをチェックします。
- ・単語量が増えた。「基本4000語」と電子辞書を使って、英英／和英／語源をチェック。英英の例文に目を通せば速読の練習にも。

また、私にとって、学習を続ける上での一番のポイントは、指導者でした。幸い、難波先生は「ほめて伸ばす」タイプ。生徒の声によく耳を傾け、柔軟に対応して下さる方です。良き指導者を得て1年で二冊のテキストを終了できたことは、大きな自信になりました。

「手応えのある教材」「アットホームな教室と優しい先生」「他の生徒の方との交流」「良心的な価格」とこれだけの条件が揃えば、今後も長く続けられそうです。

将来は、海外ドラマやペーパーバックを英語で楽しむことを目標に続けたいと思います。



～協力校より～

リスニング力を鍛えた茅ヶ崎方式

福山校 C3会員 小林皓志

会社を定年退職し、時間ができたので何とか英検1級だけは取得して切りをつけたいと思案していた時、茅ヶ崎式をやっている福山市の皆成学園に出会った。もともと、1級の一次試験はリスニングを除いて常に合格レベルにはあったが、リスニングの点数だけはいつも悪く、全体の足を引っ張っていた。ある時、東京で英検の指導教育をやっているある学校の先生に上記の自分の現状を打開する方法を尋ねた。この先生から、「あなたはリスニングのレベルアップのために、英語の読み書きと同じくらい時間を割いていますか？」という質問が返ってきた。この時、「ガツン」という思いがしたと同時に、これまで日本人の英語教育は指導順序が完全に間違っていると痛感した。

人間は生まれて最初に耳に入るものは物音や、人の言葉であり、次には親に教えられて言葉を発する行為なのである。読み書きなるものはもう少し後になってやる行為である。この既に定められている人間の宿命のような順序鉄則を無視して外国の言葉を学んできた者にとっては、「外国の言葉をマスターする」などという行為は至難のワザである。

これまで何十年と自分なりに英語を勉強してきたとはいえ、茅ヶ崎方式の月刊英語教本の英文を何の準備もなしに丸腰で聞き、そのまま和訳することは、当初は苦痛さえ感じた。しかし、幸いにも茅ヶ崎方式を始めてから2年弱で1級に合格した。

単語力だけはかなり身に付いてきたが、これは年の功だと思っている。しかし、リスニング力は油断すると直ぐに足元を引っ張られる。リスニング力あつての英語力だと最近特に痛感している。定年退職後、ボランティアで英語を使った場面に何度か出会ったが、ネイティブと通じ合えるのは、リスニング力が一番大切である。今後も研鑽を続けていく覚悟である。

お知らせ：

- * 前号でご紹介し、本号では著者が巻頭でご挨拶しておりますように、茅ヶ崎方式の集大成とも言うべき対話教本「Book 5」がいよいよ12月末には全国の書店に並びます。1月25日頃までに教室で申し込まれますと（申込締切日については各教室にご確認下さい）、発売特別価格で購入いただけます。C4クラスはまだまだと思っておられるC2またはC3のクラスの方々も、手元において随時参照いただけるような内容です。おすすめいたします。
- * C4クラスの教材もBook 5をベースとする教材に衣替えします。ご期待下さい。

あとがき：新しい年がスタートします。風邪やインフルエンザにくれぐれもお気をつけください。皆様からのお便りをお待しております。